

2 中 学 校

中学校：保健師による「性について」の実践

対象学年（1・2・3学年） 教科・領域（特別活動） 所要時間（50分）

計 画

1. 目的

各学級で性に関する指導を受けた生徒たちが、保健師からより専門的な話を聞くことで、知識の補充をして、さらに理解を深めたり、今までの気づきや学びを発展させたりするため、学級指導後の保健師による指導を設定した。

2. 日時・講師・内容

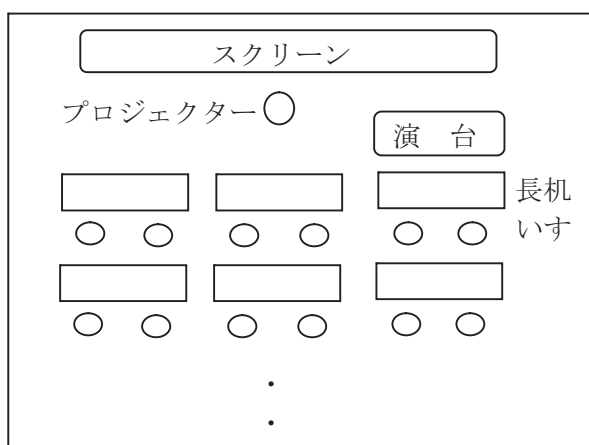
講師 ○○保健センター ○○○○保健師、○○○○保健師（○○市出前講座活用）

1 学年	12月5日（金）	9：35～10：25	「自分の性と向き合うはなし（第二発育急進期）」
2 学年	12月1日（月）	9：35～10：25	「思春期の心の中をのぞいてみよう（私とあなた）」
3 学年	12月1日（月）	10：35～11：25	「エイズ・性感染症の予防」

3. 当日の日程

- ・朝の学活で、既習事項の確認と授業の導入を済ませておく。（学習カードも配布しておく）
- ・講師紹介後、学年のテーマによる講話に入る。
- ・質疑応答
- ・講話終了後の残り時間は、感想記入の時間とする。時間が足りないようであれば、放課後の学活等を利用する。

4. 会場



※同日に複数学年の授業を依頼してある場合は、共通で使用できる会議室を会場とし、生徒が入れ替わる形をとる。（講師の移動をなくし、情報機器の設置時間を省くため）：左図参照

※1日1学年の場合は、各教室を会場とし、教室のテレビとパソコンをつないで使用する。

5. 準備等

- ①○○市出前講座の申し込みの流れに沿って、講座の申し込みを行う。（養護教諭）
- ②保健師からの、指導案（資料）を各学年で検討する。また、生徒の実態等、保健師に伝えておくきこともまとめておく（担任・養護教諭）
- ③各学年での検討事項をもとに、保健師と事前打ち合わせを行う。（養護教諭）
- ④会場準備は、教室の場合は休み時間に、会議室の場合は前日におこなう。（担任・養護教諭）

講師と事前打ち合わせする際のポイント

<各学年での検討事項>

- ・生徒の実態や課題をまとめておく。
- ・事前に保健師からいただいた、指導案（資料）に目を通し、内容等を検討する。

<保健師との打ち合わせ>

- ・各学年での既習内容や、その際の反応・感想を伝える。
- ・学年会での検討事項（生徒の実態や指導内容への要望等）を伝える。
- ・各学年の実態や課題に応じ、指導案を修正していただく。
→既習内容のスライドを入れてもらったり、実態に応じたスライドに差し替えてもらったりする。
- ・保健師より、必要な導入事項があれば伺い、事前に実施しておく。

講師依頼先及び予算（講師謝金）

- ・依頼先：〇〇市保健所
- ・予算：〇〇市出前講座利用のため、無料

授業の概要（単元展開） * 枠内が外部講師活用部分

<1年生>

①「生命の奇跡・胎内での成長、あなたはすごい力で生まれてきた」【担任・養護教諭】

- ・自他の存在がかけがえのないものだと気づく。
- ・命をつなぐことのできる体へと変化していると気づく。

②保健学習【保健体育科】

③「自分の性と向き合うはなし（第二発育急進期、月経・射精、抱えやすい悩み、心の中のこと…等）」【保健師】

- ・心身の変化は、あって当然なことで、また個人差があることに気づく。
- ・様々な情報が飛び交う今であるが、正しい知識を理解し、不安を解消したり、適切な行動選択ができるようになったりする。

<2年生>

①中2の脳内をのぞいてみよう【担任・養護教諭】

- ・思春期は多くのことを考え、悩んでいるということに気づく。
- ・男女で考え方の違いがあることに気づく。
- ・自己を振り返ることができる。

②男女の違いを踏まえた、行動選択を考えよう【担任・養護教諭】

- ・男女の違いを理解し、男女とも自分自身がどんなことに気をつけて、男女の関わりをもったらよいか考えることができる。

③わたしとあなた（男女の違い、コミュニケーションの取り方、SNSの怖さ、磨いておきたい4つのパワー）【保健師】

- ・男女の関わりについて、再確認できる。
- ・男女問わず、コミュニケーションの取り方について考えることができる。（SNS利用についても含む）

<3年生>

①保健学習【保健体育科】

②保健師指導「性感染症・エイズ予防について」（感染症の詳細、デートDVについて）【保健師】

- ・正しい知識を理解し、行動選択に役立てることができる。

③巣立っていくあなたたちへ【担任・養護教諭】

- ・学習の積み重ねを振り返り、社会に出たときも正しい知識をもとに、自分自身で決定し、行動が選べるようになる。

授業の様子

【2年生】



<単元展開①の様子>



<単元展開②の様子>

<単元展開③の様子>

生徒の感想

※感想の前の数字は、前ページの単元展開と対応

<1年生>

- ①改めて自分の命は奇跡だと思った。かけがえのない自分（の命）、自分だけでなくみんな（の命）も大切にしたい。そんな奇跡の集まりがこのクラスだと思うと、仲間も大事にしたいと思う。誰の体も心も傷つけてはいけないなと思った。
- ①自分の命の始まりは、とってもしゃいなものだけど、自分自身の「生きる力」と、親とか周りの人の支えもあって、ここまで成長できたんだな、と思った。そして、今は次の命をつなぐ体に変化してきているんだと思った。
- ③性教育はいやらしいものではなく、心にも関わってきて大事なことだと思った。
- ③「男子は楽でいいよね」と思ったこともあるけど、「男子も色々あるんだな」と思った。
- ③自分が悩んでいることも少し分かった気がする。お話を聞いて、少し安心した。
- ③悩んでいたことが、大丈夫だと知って安心した。普段、あんまり人に聞けないことだから、聞いてよかった。

<2年生>

- ①男女の違いが出ておもしろかった。今の自分と重ねて考えることもできてよかった。
- ①最近悩んだり、イライラしたりすることが多くて、不安だったけど、脳内メーカーを作成している時に、意外にみんなも悩んだり・イライラしていることがあるとわかって、安心した。思春期って大変な時期ですね。
- ②男子の行動に「はあ？」って思うこともあったけど、脳の仕組みもあって仕方がないことだと思った。自分も嫌だったら期待させるような行動とかはしないで、自分の気持ちも伝えていきたい。
- ②異性への関心が増えているのは、このクラスでもあると思います。自分がいいと思ってしたこと、相手は嫌かもしれない。自分の気持ちだけで行動せず、相手の気持ちも考えられる最高の男になる努力をしたいです。
- ③自分の心とからだは、自分でしか守れない。なので、自分の体も心も大切に考えていきたい。
- ③前の授業でやったことを、さらに深く学習できた。感情は人それぞれで、体も個人差がある。男女もだし、友達関係でも、お互いのことを理解し合っていきたい。そのために、今日の4つのパワーを磨いていきたい。
- ③自分にはあまり意思がないので、もっと自分の気持ちを大事にして、自分の気持ちを伝えられるようになりたい。
- ③コミュニケーションのことを振り返ると、自分はスマホの使い方を見直さないといけないと思った。言葉で直接伝えるのも大切だと思う。スマホとかネットとかSNSの使い方に注意したい。

< 3年生 >

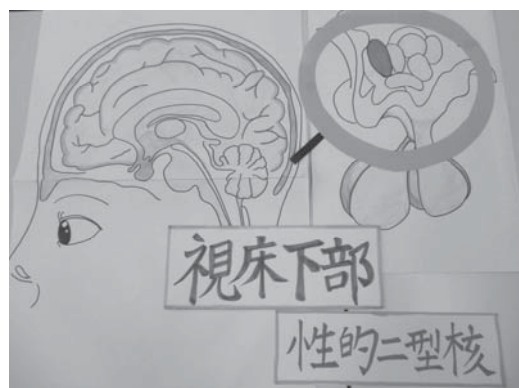
- ②何か行動するときには、自分の中の知識や行動を基にして決めるので、今日の話などの正しい知識をしっかりと聞いて、今後に役立てたい。
- ②嫌なときには「嫌だ」という気持ちを相手に伝えることが大切だと言うことが改めて分かった。将来仲良くなった異性とは、正しい知識を持って、相手と一緒に考えたい。
- ②自分と相手を大事にできる、いい大人になってやる！
- ②大人になったら、相手と一緒に（エイズなどの）検査を受けるのも大事なかなと思った。
- ③命をつなぐことの重要さや自分自身の大切さを感じた3年間の性教育でした。これから社会に出たときも、学んだことを大切にしたい。
- ③1年生の頃とかは、「特に必要ない、自分には関係ない」って思った性教育だったけど、3年間積み重ねてきて、少しずつ自分と重ねて考えられるようになったし、今もこれからの大切なことを学んだと思う。自分の今や将来のことをしっかりと考えて、自分のことは自分でしっかり決めていきたい。

資料等

<事前学習時・利用教材等>

< 1年生①の授業で使用した教材 >

卵子の大きさや、胎内での成長など、視覚的な教材を作成した。また、生徒の家庭環境等も配慮し、「あなたはすごい力で生まれてきた」を一部修正し活用した。



< 2年生①の授業で生徒が作った中2の脳内 >
男女別のグループに分かれ、それぞれが「中2男子の脳内」と「中2女子の脳内」考える。14項目用意し、項目の数や配置を工夫して作成した。また、その理由を共有し、盛り上がった1時間であった。

< 2年生②の授業で使用した教材 >
前時（2年生-①）に作った脳内では、どのグループも男子の方が、Ⓜの割合が多かった。その理由は、男女の脳の違いにあった？！

中学校：ピアカウンセラーによる「性について」の実践

対象学年（3 学年） 教科・領域（特別活動） 所要時間（各 50 分）

計 画

1. 目的

中学卒業を目前にし、“性”がより身近な物にせまってくる年齢にさしかかった子どもたちが、正しい知識の基で、同世代のピア(仲間)と話をしたり活動したりする事を通して、性に関わる態度や行動が意志決定できるようになる。また、保健教育や講演会など、受動的な性教育ではなく、ピア(仲間)からの正しい知識を基に同世代の価値観を共有する仲間が本音で話を聞き合いながら自主自立的に学び合う機会として設定した。(ピアカウンセリングについては p59 参照)

2. 日時・講師・内容

平成 25 年 2 月 21 日（木） *〇〇保健福祉事務所へ依頼し実施

9 : 45~10 : 35 3 年 1 組・3 組

10 : 50~11 : 40 3 年 2 組・4 組

(1) 講師 思春期ピアカウンセラー

長野県主催の思春期ピアカウンセラー養成講座修了者で構成された自主活動グループに所属し、「生」と「性」について伝える活動をしている学生

(2) 内容 ピアエデュケーション

①セクシャリティ（セクシャルマイノリティ）

②セクシャルネットワーク（性感染症）

③コミュニケーション（価値観の多様性）

④男女の性の違い

(3) 方法 ピアエデュケーション

① 思春期ピアカウンセラーの学生 8 名（大学生）が、それぞれのテーマを持ち寄り、テーマ毎の分科会で活動する。

② 3 年生全 4 クラスを 2 クラス（70 名）ずつ、4 グループに分けて別日程で 2 回実施

→あらかじめ、参加したいテーマの希望調査をとりグループ分けを行う。

配慮を要する生徒については、希望調査の様子を見ながら判断する。

③ 教科担任や、3 年の空き時間の教員は見学しても良いが、進行その他はそれぞれの教室で、ピアが行う。机間巡視などは控え、子どもたちの様子を見守る。

3. 当日の日程 会場づくりは 1 時間目終了後にピアカウンセラーが各クラスの生徒と行う。

4. 会場 4 か所の教室で実施 対象クラスの教室(2 か所)、視聴覚室、会議室

5. 準備等 ピアエデュケーション

- ・必要備品：(教室毎)黒板 ラジカセ (机, 椅子) マグネット (生徒) 筆記用具
- ・事前に学級の時間に、受講希望の調査を行う

講師との打ち合わせする際のポイント

- ・学校として押さえてほしい内容の確認とピアカウンセラーの考えのすり合わせをする。
- ・講演会の流れや分担を確認する。
- ・本校の性に関する指導の様子や実態を伝達する。
- ・ピアカウンセラーの企画書について検討する。
- ・今後の動き（グループ編成や当日の日程）について打ち合わせをする。
- ・本校3年生の実態把握と課題の設定をする。
- ・修正企画書についての共通理解を図る。

講師依頼先及び予算（講師謝金）

ピアエデュケーション：〇〇保健福祉事務所へ依頼 ピアカウンセラー8名
交通費1万円（学校が支出）電車賃1人1,200円程度として計算

授業の概要

①セクシャリティ（セクシャルマイノリティ）

自分の性、相手の性に“SAY YES” 性って男性、女性だけ？好きになるのは異性だけ？

時間	内 容
10分	ピアの自己紹介 導入「性を気にするのはどんな時だろう」
10分	セクシャリティについて ・性には「身体の性」「心の性」「外見の性」「好きになる人の性」の4つの指標があることを説明する。 ・自分の4つの指標について考える
8分	・同性愛、両性愛、性同一性障害など、セクシャルマイノリティの説明
10分	まとめ

②セクシャルネットワーク（性感染症）

恋人が出来たとき、自分を守るために出来ることってなんだろう・・・？

時間	内 容
18分	ピアの自己紹介 ・性感染症の基礎知識 一日当たりのHIV感染する人の人数を知る。
18分	・性感染症の感染拡大の仕組みを再現する。 ・予防に対する姿勢を学ぶ。“「お互いが初めての相手だったら性感染症に感染していない？」と質問すること”について円になってディスカッションする。
18分	自分の大切なもの ・自分の大切なものをグループで発表する。自他の大切なものを守るために大切なものは何かを考える。
5分	まとめ

③コミュニケーション（価値観の多様性）

普段の自分の何気ない行動で友だちを傷つけていないかな・・・？

時間	内 容
7分	ピアの自己紹介 エクササイズで緊張をほぐす
20分	・無意識に自分のしている言動や態度が人に不快な印象を与えている可能性があることに気づく。 ・ペアでディベートを行い、その後、全体へ発表する。
15分	「ペット」「お金」「時間」「男女」のうち一つをテーマに据えて話し合い、価値観がそれぞれであることを知る。自分の考えと同様に相手の考えも大切なものだ気付く機会とする。
3分	まとめ

④男女の性の違い

男女でお互いに求めているものって同じなのかな・・・？

時間	内 容
10分	ピアの自己紹介。エンカウンター（エクササイズ）
15分	男女の愛のはぐくみ方の違いを考える。
15分	お互いを大切にし合える関係を築くために、大切なことは何かを考える。 ・気持ちを伝え合える大切さを体験してみる。
10分	まとめ

授業の様子



①セクシャリティ（セクシャルマイノリティ）



②セクシャルネットワーク（性感染症）



③コミュニケーション（価値観の多様性）



④男女の性の違い

生徒の感想

①セクシャリティ（セクシャルマイノリティ）

- ・体と心の性が一致する人もいれば、そうでない人もいることがわかった。でも、一人ひとりの思いがあるから、否定するのではなく受け入れることが大切だということが分かった。
- ・もしかしたら、自分の周りにも少数派の人がいるかもしれないという可能性を知った。そういう人がいても嫌じゃないなと改めて思った。
- ・人の性別を見かけで判断してはいけないと思った。人としてひとりの人間としてつきあっていきたいと思う。
- ・あまり自分の事を考える機会がなかったけれど、自分のことを考える機会になって良かった。
- ・共感できて良かった。中学3年間ずっとこういう授業を待っていた。

②セクシャルネットワーク（性感染症）

- ・エイズは自分で予防すれば感染しない病気だと知った。
- ・セクシャルネットワークでいろんな人とつながっているので感染経路はいろいろあることが分かった。
- ・性行為の怖さをしっかし、でもちゃんと予防法を教えてくださいましたので勉強になりました。性感染症の感染経路は3つであると知った。1日4人もの感染者数であることを知ってビックリした。
- ・説明に紙芝居とか使っていてわかりやすく面白かった。完璧です！！！！！！
- ・どうしても子どもが欲しいときはどうするのですか？「→特別な方法で妊娠・出産することは可能となっています」と返答をいただきました。

③コミュニケーション

- ・人の相談に乗るときは、しっかり相手の目を見て話を聞く態度を取るようにしようと思った。
- ・普段の態度の中にも相手に嫌な気持ちにさせてしまうことがあるかもしれないことに気づいた。
- ・客観的に見ることで、どれが悪いのか具体的に分かって良かった。改めて気づくことがあった。
- ・聞く態度が少し変わるだけで、こんなにも話しやすくなるということがわかった。
- ・高校生になるので、自分の行動を見直したい。
- ・実演をみたり、実際にやってみたりして楽しく学習が出来た。

④男女の性の違い

- ・男子と女子は違う生き物だけど、同じ言葉で伝え合うことの出来る同じ生き物であるという話が印象的でした。
- ・愛は急がずにゆっくり進めた方が長続きすると言うことが勉強になった。
- ・いつも学校の授業では学べないようなことを沢山学ぶ事が出来ました。すごくいい機会になりました。
- ・異性同士だと同じ話題でも意見に大きな差があったので、相手が何をどう考えるか今後は気にしていこうと思う切っ掛けになりました。
- ・こういう活動はとてもいいと思うので、これからも若い世代に広めていって欲しいです。お話も普通に出来て、ノリが良くて最高に楽しかったです。

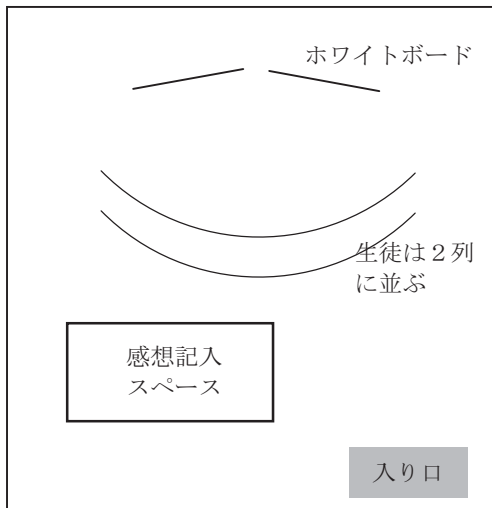
中学校：NPO 法人による「性被害予防」の実践

対象学年（2 学年） 教科・領域（特別活動） 所要時間（240 分）

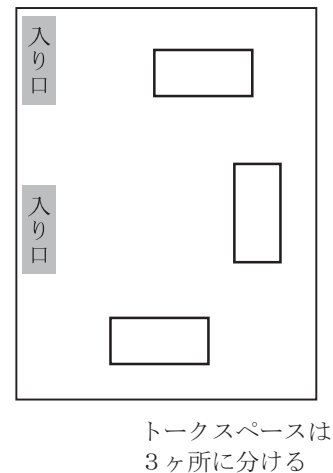
計 画

1. 目的 学校、家庭、社会で起こるさまざまな暴力と人権について学び、暴力から自分や周りの人を守るための意思決定や行動選択ができるようにする。
2. 日時・講師・内容
 - (1) 10 月 31 日（金） 13：30～15：30
講師 CAPO〇〇〇 CAP スペシャリスト 3 名
内容 ・暴力と人権 ・暴力（痴漢・いじめ）から身を守る方法
 - (2) 11 月 14 日（金） 13：30～15：30
講師 CAPO〇〇〇 CAP スペシャリスト 3 名
内容 ・体罰（ジェンダーの偏見） ・デートレイプ ・動いて選択（意思表示）
3. 当日の日程
ワークショップ 13：30～14：10
感想記入・トークタイム 14：10～14：30
4. 会場 ワークショップ・感想記入 学習センター
トークタイム 会議室

【学習センター】



【会議室】



5. 準備等
 - ①講師との打ち合わせ（学級担任）
 - ②当日の呼び名の希望をとり，講師へ連絡（学年職員）
 - ③グループ分け（学年職員）
 - ④ホワイトボード，椅子，机等，会場の準備（学年職員）
 - ⑤司会進行（学級担任）

○ CAPとは

CAP とは、自分を大切にすることを育てる人権教育です。CAP は、子どもが弱い存在とは思いません。①安心して生きる ②自分に自信を持つ ③自分で選べる自由 この3つの権利を持っているということを通して伝えます。CAP の役割は、子どもが本来持っている内なる力を引き出す（エンパワメントする）ことです。
(講師配布パンフレットより)

講師と事前打ち合わせする際のポイント

- ・CAPの理念、ワークショップの目的等について正しく理解する。
- ・内容が生徒の発達段階やニーズに合ったものになるよう、学級の現状や雰囲気について伝え、相談をする。
- ・暴力を受けた経験があるなど、配慮が必要な生徒については、可能な範囲で情報を伝える。
- ・ロールプレイの登場人物の名前は、生徒の名前や、身近な人の名前にならないよう、すべて確認する。
- ・必要な準備品、会場設営について確認する。
- ・ワークショップ後のトークタイムの持ち方、その場で知り得た情報の扱い方について確認する。

講師依頼先及び予算（講師謝金）

- ・依頼先 CAP〇〇〇事務局
- ・予算 〇〇村の補助を受け、村内で4回のワークショップを開催 15万円
〔 中学校 生徒対象1回（本事例）＋保護者・教職員対象1回 〕
〔 小学校 児童対象1回＋保護者・教職員対象1回 〕

授業の概要

【1日目】

時間	内 容
20分	暴力と権利について学ぶ
45分	ロールプレイ①「知らない男性から男子への痴漢行為」を見て考える ・暴力への対処法 ・セクシャルマイノリティ ・護身術の体験
35分	ロールプレイ②「女子から女子へのいじめ」を見て考える
20分	トークタイム（復習と相談の時間）

【2日目】

時間	内 容
35分	ロールプレイ③「親からの強要，暴力」を見て考える ・男らしさ，女らしさ ・親の期待と体罰 ・気持ちを話す，聞く練習
35分	ロールプレイ④「デートレイプ」を見て考える ・性に関する誤った認識 ・断りにくい誘いに対処する練習
30分	動いて選択「親は子どもに体罰をしても良いか」 意見交換
20分	トークタイム

授業の様子



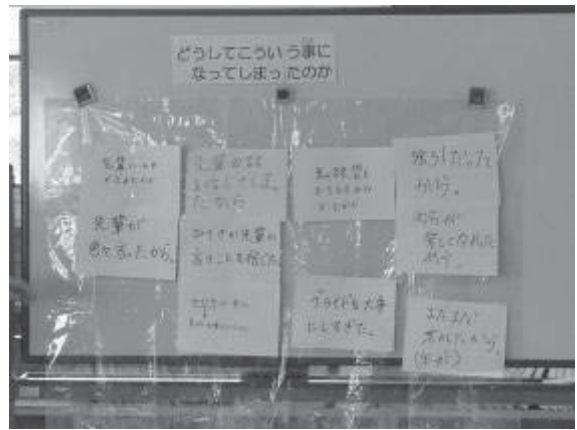
ワークショップ中の生徒の様子



講師によるロールプレイ



グループに分かれて考えを伝え合います



出された全ての意見が尊重されます

生徒の感想

- ・男の人でもセクハラなどをされることがあるということを知って、とても驚いた。(男子)
- ・暴力は、どこからどこまでが入るのか良く分からないところが多かったので、自分がどれだけ意識しているのか確かめることができた。(男子)
- ・今日はキス以上までいくとか、男が勝手に決めて行動するのは良くない。自分の考えをお互いに伝え合うことが大切だと思った。(男子)
- ・このような問題が起きたとき、「話す」ということがとても大切だと分かった。(男子)
- ・人の権利は奪っちゃダメだし、奪われてもダメです。自分で守らなければいけません。しっかり考えたいです。(女子)
- ・人権を守ることは難しいと思ったし、自分が先に傷付けられたらどう守っていったらいいか悩みます。(男子)

CAPは自分を大切にできる気持ちを作る人権教育です。

CAPは子どもが弱い存在とは考えません。



安心して生きる

自分に自信を持つ



自分で選べる自由

3つの権利を持っているということ
をワークショップを通して伝えます。

CAPの役割は

子どもが本来持っている **内なる力** を
引き出す (エンパワメントする) ことです。

CAPの歴史

- 1978年 アメリカ・オハイオ州コロンバスで起きたレイプ事件をきっかけにCAPプログラムが作られました。
- 1985年 CAPトレーナー森田ゆりによって日本に紹介されました。
- 現在 世界16カ国で実施され日本では150以上のCAPグループが活動しています。

ワークショップってなあに？

おとな
ワークショップ

権利を守るため、子どもを孤立させないため、
子どもを援助するために何が出来るか考えます。

子ども
ワークショップ

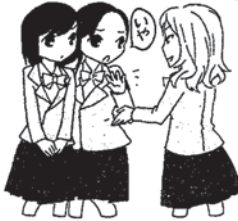
子どもたちはロールプレイや話し合いを通して
「自分を守る力」を身につけていきます。

No!

いじめ
ロールプレイ

Go!

知らない人から
の性暴力



「いや」って
言ってもいいよ
誰かの力を
借りよう

嫌なことや
怖いことが
起こっている
場所から
離れる・逃げる



知っている人から
の性暴力

Tell!

身近な人から
嫌なことをされたら
「いや」って
言ってもいいよ
嫌な気持ちは
我慢しないでいいよ

信頼できる人に
話してみよう



生徒向けパンフレット

CAP 2010・2011年5月版/Apr. 14

☆ CAP おとなワークショップ ☆

CAP 子どもへの暴力防止
子どもが暴力から自分を守るための人権教育プログラム

1. CAP (キャップ) とは Child Assault Prevention の略
1978年 アメリカ・オハイオ州コロンバス市 レイプ支援センターで誕生。
1985年 森田ゆり氏により日本に紹介される。
現在、世界で16カ国、全国で150以上のグループが活動する。

CAPでは、子どもが本来持っている力を信じ、引き出すというエンパワメントの関わりで、「～してはいけません」という禁止教育ではなく、「こういう方法もあるよ、ああいう方法もあるよ」と行動の選択肢を広げていくアプローチをとっています。

2. 暴力とは 「人の心と体を傷つけること」

(1) 人権侵害
権利とは…生きていくためになくてはならないもの
● 暴力を受けることは、自分の「安心」「自信」「自由」の権利を奪われること。
● 暴力をふるうことは、人の「安心」「自信」「自由」の権利を奪うこと。

(2) 虐待の4つの分類
①身体的虐待 ②性的虐待 ③ネグレクト(養育・保護義務の拒否、怠慢) ④心理的虐待

(3) 体罰とは
①体罰とはしばしばそれをしてるおとなの感情のはけ口であることが多い
②体罰は子どもに恐怖感を与えることで子どもの行動をコントロールする方法である
③体罰は即効性があるものでそれを使っている他のしつけの方法がわからなくなる
④体罰はしばしばエスカレートする
⑤体罰はそれを見て他の子どもに深い心理的ダメージを与えている
⑥体罰は時には取り返しのつかない事故を引き起こす

3. CAPプログラムの内容

教職員ワークショップ 学校関係者・職員	おとなワークショップ 保護者・地域のみなさん	子どもワークショップ 小学生・中学生・高校生対象の3種類
● 主な内容 (2時間～2時間半) ● CAPのアプローチ ● 児童虐待防止法について ● 被害者の訴え方 ● 通告の方法 ● 支援機関の連携 ● 研修などで、単独でも実施できます。	● 主な内容 (2時間～2時間半) ● CAPの暴力防止教育とは ● 子どもワークショップの紹介 ● 私たちおとなにできること ● 研修などで、単独でも実施できます。	● 就学前は1グループ15人前後で、小学生・中学生・高校生はクラス単位で行う。 ● 就学前 (20分+トークタイム30分) ×3日 ● 小学生 (50分+トークタイム30分) ×1日 ● 中学・高校生 (100分+トークタイム20分) ×2日 ● トークタイム (演習と相談の時間) ※1 ● 子どもワークショップは おとなワークショップ実施後に行います。

※1 トークタイム
● 子どもワークショップのすぐ後に行います。
● ワークショップの運営をしたり、質問や相談を受けたりする大切な時間です。
● 子どもたちの気持ちを大切に、困っていることがあれば、何が出来るか一緒に考えます。

4. CAPプログラムの3つの防止アプローチ

(1) 人権意識を高める ⇒ (安心) (自信) (自由) の3つの権利を持っているわたし
「わたしはかけがえのない大切な人だと想う心」 ← エンパワメント^{※2}の関わり

※2 エンパワメント…子どもたちが本来持っている力を信じ、引き出すこと。
「子どもが弱く、おとなが守るべき存在」ではなく、子ども自身に困難を乗り越える力がある。

(2) 正しい知識を提供する …年齢や発達に合わせて知識やスキルを伝える。

NO! いやだって 言ってもいいんだよ	GO! 逃げていいよ	TELL! 相談しよう
もし一人で言えなかったら 友だちに頼んでいっしょに 言おう。 言っている友だちがいたら、 力になってあげよう。	怖いこと、嫌なことをされそ うになったら、逃げよう。 いつまでもその場所にいな くていいんだよ。	いやなことをされた時、困っ た時は勇気を出しておとなに 話そう。勇気を出して、話を聴い てくれるおとなに出会えるま で、おきらめないで話そう。

(3) 孤立を防ぐ
→ 家庭・学校・地域をつなぐ (コミュニティ)

● 子どもの話をしっかり聴けるおとなを増やす。
● 子ども同士が助け合う

5. わたしたちおとなにできること

「聴く」ことは、だれでもできる心の手当

CAP 子どもワークショップでは「困ったことがあったら信頼できるおとなに話そう」とを繰り返して伝えています。自分の話を聴いてくれるおとな、自分の話を聞いてくれるおとな、どうしたらいいかを一緒に考えてくれるおとなとの出会いは、その後のその子の人生を変えるかもしれないくらい重要です。受たり、責めたり、道義に心配しないで、そんな時は、ゆっくり時間をかけて、子どもの話を聴いてください。

● 事実関係よりむしろ、子どもの気持ちに寄り添いあたたかく受け止めます。
● 否定したり、アドバイスしたりしないで、子どもの話を聴きます。

真剣に聴く 気持ちの言葉を繰り返して返し、共感して聴く 話してくれてありがとう

できることは何だろう。一緒に考えよう。 あなたは悪くない。あなたを信じるよ

★子どものモデルはまわりのおとなです。おとなも大変な時は気持ちよく、助けを求めて下さい。
子どもは聞きやすいだけでなく、驚くほどの回復力を持っていることを忘れずにください。

生徒ワークショップと併せて開催されるおとな (保護者・教職員) ワークショップ資料

中学校：助産師による「赤ちゃん体験」の実践

対象学年（3学年） 教科・領域（総合的な学習の時間） 所要時間（50分）

計 画

1. 目的 お母さんや助産師さんのお話を聞くことや赤ちゃんを抱くことで、優しく穏やかな気持ちになったり、自分の産まれた頃に思いをめぐらせたりしながら、命の大切さや思いやりの気持ちを持ち、これからの生き方を考えることができる。

2. 日時・講師・内容

(1) 事前学習

日時：11月7日（金）10：50～12：40（3・4時間目）

講師：助産師・町保健師

内容：・助産師による講話「妊娠・出産について」
・保健師による指導：妊婦服着用体験，赤ちゃん人形を使つての抱っこの練習

(2) 当日

日時：11月12日（水）10：50～11：40（3時間目）

講師：町保健師

内容：赤ちゃんとお母さんが来校，赤ちゃんとのふれあい体験を行う。

3. 当日の日程

保健師さん来校，会場準備	10：10
お母さんと赤ちゃんが来校	10：30
ふれあい体験	10：50～11：40

4. 会場

〇〇中学校 〇〇ホール（右図参照）

・参加者は靴を脱ぎ，絨毯の上で活動する。

会場図

5. 準備等

会場全体に絨毯を敷く。

座布団（お母さんと赤ちゃん分）

粗品（町保健師が持参，終了後お母さんへ贈呈）

お母さん用アンケート記入用紙，
筆記用具等

生徒用感想用紙配布回収（担任より）

【生徒・赤ちゃん・保健師】

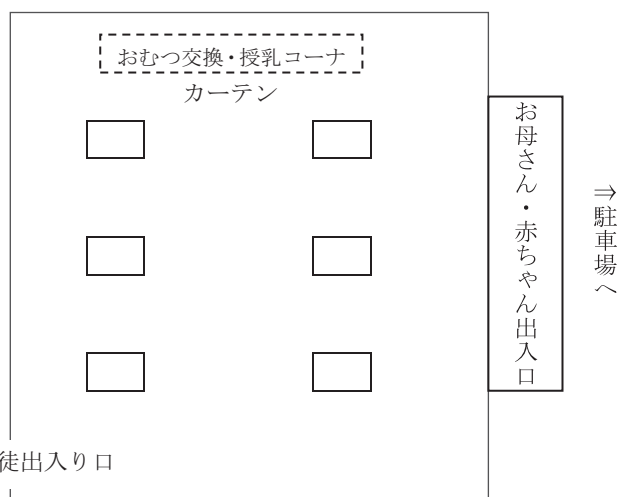
養生テープに名前を記入し，服に貼る。

【生徒】

清潔なエプロンを着用。爪を切り，髪はまとめる。手首のゴム等はずす。

アルコール消毒で手を清潔にする。咳がでる場合はマスク着用。

お母さん方への質問を考えておく。



講師と事前打ち合わせする際のポイント

講師：町保健師（事前指導：助産師）

- ・性に関する指導内容について、既習内容や目標について説明し、理解してもらう。
- ・日程調整・・・インフルエンザ等が流行する前の寒くならない時期にする。インフルエンザが流行した場合は中止になることを予め伝えておく。
- ・お母さんと赤ちゃんの参加について・・・お母さんへの呼びかけ・連絡調整は、保健師さんにお任せする。
1歳未満の赤ちゃんを持つ家庭へ参加の呼びかけをお願いしてもらい、およその人数がわかり次第連絡をいただく。学校は人数に合わせてグループ数などを考慮する。授乳・おむつ替え等の場所を確保することや、中学生が事前学習を行った内容等を予めお母さん方に伝えてもらうことで、お母さん方の不安が少なくなるよう配慮してもらう。
- ・はじめの会、まとめの会、進行について・・・全体進行は養護教諭、グループ内での進行は班長の生徒が行い、保健師さんは主に活動中のフォローをしていただく。

講師依頼先及び予算（講師謝金）

事前指導：助産師（謝礼 5,000 円）

当日指導（支援）：町職員（保健師ほか） 5名（謝礼なし）

当日お母さん方への粗品（町より準備）：マスク・紙おむつ試供品など 12名分

授業の概要

時間	内 容
5分	<教室にて>身支度等の事前準備・確認
5分	入場・はじめの会 1 内容説明（養護教諭） 2 お母さんより、赤ちゃんの名前と月齢、担当グループを紹介。 ～お母さん方は各グループへ移動～ 3 各班で自己紹介、お母さんへの一言質問（進行：班長） （自己紹介が終わったら 抱っこ・ふれあい体験へ）
25分	ふれあい体験
15分	まとめの会 1 お母さん1名、お父さん1名より、感想発表 2 生徒代表（女子1名・男子1名）より、感想発表 3 （全体で）お礼の言葉 各グループごとに解散（班長中心に感想・お礼の挨拶）
	感想・お母さん方へのメッセージ記入（宿題）

授業の様子



はじめの会の様子



事前指導・助産師講話



ふれあい体験中の生徒たち

生徒の感想

- ・「泣き声で何がしたいかわかる」と聞いて、お母さんってホントにすごいなあ、と思いました。今日お母さん達にお聞きしたことを、将来自分がママになったときに生かしていきたいです。(女子)
- ・赤ちゃんを抱っこさせてもらおうと泣き出してしまい、お母さんのところへいき少し立つと泣き止んだので、やっぱりお母さんがいいんだな、さすがお母さんだな、と思いました。わたしも赤ちゃんを安心させられるような優しいお母さんになりたいです。(女子)
- ・お母さんから、赤ちゃんが昼でも夜でも泣いてしまうため起きるのが大変だったり、寝ることがなかなかできないと聞き、たくさんの苦労があることを知りました。自分が親になったときも同じような苦労をするかもしれないので、そのときはしっかり世話ができるようにしたいと思います。(男子)
- ・手のひらで感じた赤ちゃんは、とても柔らかく温かかったです。赤ちゃんならではの弱さでも、手をにぎった感じがしっかりしていて、とてもうれしくなりました。・・・願わくば、このふれあい体験に自分の子を連れて参加したいです。(男子)
- ・来て下さったお母さんの話を聞いて、自分が反抗期に入っても、お母さんは大事にしたいと思います。(男子)

資料等

お母さん方からの感想（中学生へのメッセージ）より

- ・子どもに目線を合わせて抱こうとする姿勢が良かった。
- ・抱っこした時の顔が自然と笑顔になり、その時のやさしい顔がとても良かった。
- ・いきなり大きい声で話したりするとびっくりするので、優しい声でなるべく高い声で話してもらえると良かった。
- ・たくさん学んで、いろいろな経験を積んで、成長して下さい。ご自身の両親のことを思い、将来素敵なお父さんお母さんになって下さい。
- ・母としても、子どもにとっても、貴重な経験をさせていただきました。自分も小さい頃こんなふうだったと思うと、人の命を大切に思えるようになれる気がします。
- ・今回皆さんとお会いできて私にとっても勉強になりました。私は中学生の時にこういった体験の機会がなく、とても素晴らしい行事だなと思います。これから先、知り合い・親・親戚等赤ちゃんとふれあえる時間・機会があれば、怖がらず、どんどん抱っこさせてもらったりお話を聞いてみて下さい。将来絶対役に立ちますし、赤ちゃんを育てる母の気持ちが少しでも判っていれば、街で見かけた際などの対応の仕方が変わってくると思います。